

第2章 まちづくりの目標

1 まちづくりの理念と将来像

本町の将来像として、「まちづくりの理念」「まちづくりの将来像」を、まちづくりの上位計画である「笠松町第5次総合計画(平成23年3月策定)」に基づき設定します。

(1) まちづくりの理念

本町のまちづくりの理念は、本町の最上位計画である「笠松町第5次総合計画」におけるまちづくりの理念を踏襲します。

“個性”を活かし“調和”を大切にしたまちづくり

(2) まちづくりの将来像

まちづくりの理念に基づき、本町におけるまちづくりの課題に対応し、将来あるべきまちの姿を定めるまちづくりの将来像は、清流木曾川の自然と調和し、本町の個性を活かした豊かで質の高い生活環境のもと、すべての住民がいきいきと暮らせることを実現することとし、以下のとおり設定します。

豊かな自然に抱かれた、いきいきと暮らせるまち

2 まちづくりの目標

まちづくりの将来像の実現に向けて、次の5つをまちづくりの目標として設定します。

(1) 地域の拠点性を高め、地域間の交流を促進し利便性の高いまちをつくる

本町は、面積10.30平方キロメートルで、そのうち約3分の1を木曾川が占めるコンパクトなまちであり、その特性を活かし、身近な拠点で必要な機能を確保できるように拠点性を高めるとともに、地域間の交流を促進し、利便性の高いまちを目指します。

(2) 活力とにぎわいのあるまちをつくる

今後の人口減少、少子高齢化の進展により、まちの活力の低下が危惧されており、必要な産業の活性化、商業振興や観光交流人口の拡大などにより、活力とにぎわいのあるまちを目指します。

(3) 自然環境を活かしたやすらぎとうるおいのあるまちをつくる

木曾川の広大な自然を活かし、河川敷のレクリエーション施設や河川沿いのサイクリングロードや遊歩道などの自然環境を活かしたやすらぎとうるおいのあるまちを目指します。

(4) 災害に強いまちをつくる

近年頻発しているゲリラ豪雨や地震などの災害への対応が急務であり、住民の生命と財産を守るため、防災・減災への対応をすすめ、災害に強いまちを目指します。

(5) 住民が主役のまちをつくる

まちづくりにおける住民の意識の高まり、価値観の多様化などから、住民が積極的にまちづくりに関わることのできる体制を確立し、住民が主役のまちを目指します。

3 将来人口フレーム

本町の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後大幅に減少すると予想されておりますが、まちづくりの将来像の実現に向けた様々な施策を実施することで、出生率の向上、転出の削減及び転入の増加を図り、目標年次である平成 47 年(2035 年)の人口を約 21,500 人とすることを目指します。

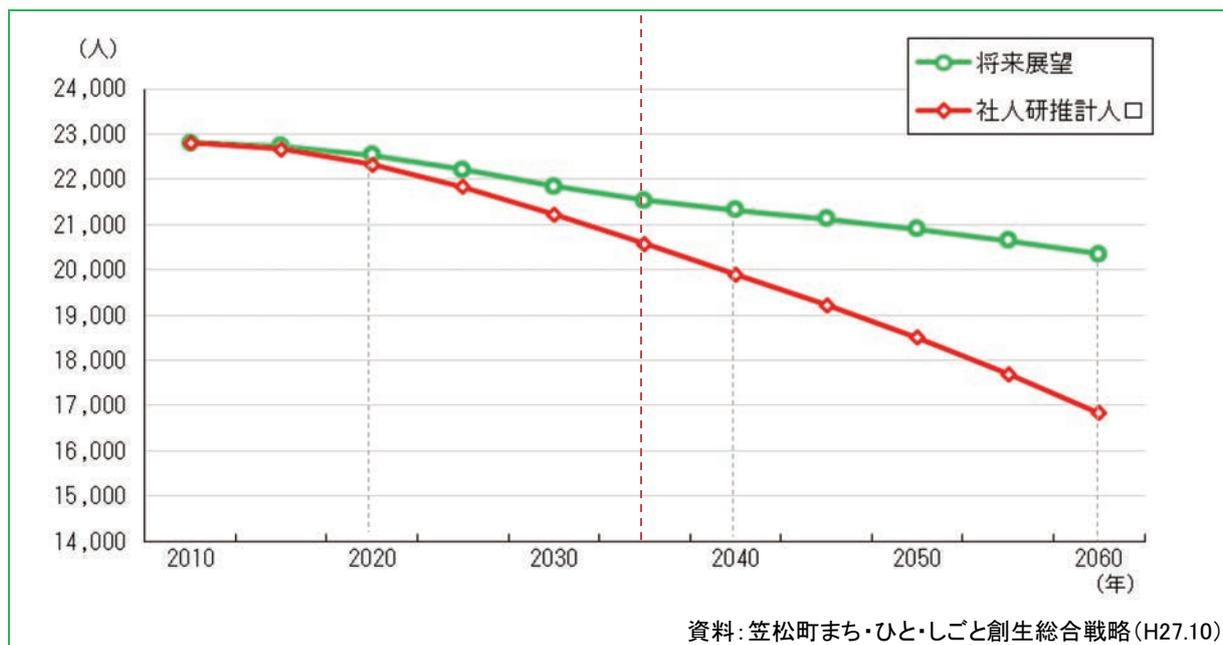


図: 人口の予測